



東京金融取引所
2019年度 業務計画

2019. 4. 24

(基本的な考え方)

短期的には市場環境に大きく影響を受ける当社の業務特性を踏まえ、中長期的な施策による業務改善を図るため、今般、2019年度業務計画を策定するとともに、新中期経営計画を前倒しで別途策定することとしたい。

1. 市場環境と取引見通し

(1) 為替証拠金

米国金融政策の転換、地政学的リスクの顕在化などにより、昨年度よりもボラティリティが上昇することが予想される。

「くりっく365」の取引数量は、過去の取引数量を勘案し、増加を見込む。

(2) 株価指数証拠金

堅調な国内経済が予想される一方、米中貿易摩擦等による世界経済の下振れリスクが高まっている。

「くりっく株365」の取引数量は、商品性の見直しによる一時的な減少を見込む。

(3) 金利

日銀の超金融緩和政策の継続により、国内短期金利はボラティリティ低下の長期化が予想される。

金利先物等取引の取引数量は、引き続き低水準を見込む。

2. 方針

(1) 証拠金取引

販売チャネルの拡充や商品の多様化を図る。
FXクリアリング事業に取り組む。

(2) 金利先物等取引

金利指標改革や規制の変化に伴う市場参加者のニーズに対応し、商品や制度の見直しを行うとともに、投資家層の拡大を図る。

(3) システム

次世代システムの安定稼働を実現する。
FXクリアリング事業の開始に向け、システムを整備する。

3. 具体策

(1) 証拠金取引

- ① FXクリアリングの制度構築、事業開始
- ② 海外・法人投資家獲得の推進
- ③ 「くりっく株365」の商品性を見直し
- ④ 新商品の開発
 - 新たな通貨ペアの選定
 - 金等商品ETFを原資産とする新たな分野の商品について仕様を確定

(2) 金利先物等取引

- ① 投資家層の変化に対応したブローカー（取引参加者）の拡充
- ② 金利指標改革に対応し、新商品の開発や既存商品の改定を準備
- ③ バンキング取引の拡大
- ④ 清算参加者破綻時における損失負担スキームの見直し

(3) システム

- ① 次世代金利・証拠金システムの運用テスト・移行の着実な推進と運用・保守態勢の整備
- ② FXクリアリングシステム開発の着実な推進